



## 「列島漂流」

多くの企業や官公庁で入社式が新型コロナウイルス感染防止への徹底した対策の下で実施された。企業の将来を担う新戦力を温かく迎えようと、苦心に満ちたものであった。コロナは経済にリーマンショック以上の深刻な打撃を与えていて、企業のトップは戦後最大のピンチの時に入社する新入社員に向けて「この苦難を総力で乗り切り、地域の未来を創っていく気概と情熱をもって、挑戦する人材に」と期待を込めていた。24日の朝刊は、4月月例報告でリーマン以来の11年ぶりの「悪化」で、極めて厳しい状況にあるとした。

コロナのパンデミック（世界的流行）で、世の中は「一瞬先は闇」で、何時何が起こるか解らないという、ごく当然の当たり前の事を知らされました。4月24日現在、日本での感染者は13,111人で死亡が341人、世界での感染者は260万人突破、死亡は18万人超と、メディアは繰り返し報道し、早期終息の見通しが立たず長期戦の様相を呈している。

安倍首相は、コロナ感染症の急速な拡大を受け、特別措置法に基づく、緊急事態宣言を7都府県に発令し、その後全都道府県にも発令した。オーバーシュート（爆発的な患者急増）で、医療現場が機能不全に陥る事態を回避する狙いがここにはあります。「可能な限りの外出の自粛に協力を」と呼びかけました。特に若年層の感染者が増加しており、甘い考えを捨てて真摯に受け止めて欲しいものです。『変なおじさん』『バカ殿様』などの独特のキャラクターで親しまれて、お笑い界のトップを走り続けた志村けんさんが70歳で亡くなりました。また、マルチタレントの岡江久美子さんも若くして命を失いました。コロナ感染による早すぎる突然の死は、極めてコロナの恐ろしさを印象づけ衝撃が広がっています。ご遺族は『コロナウィルスは大変恐ろしいです。くれぐれも気をつけて』と最大の警戒を促しておられます。

大相撲春場所も史上初の無観客での開催となりました。44回の優勝を果たした白鵬も「大きな財産、経験になった」と語りました。鹿児島城西高校が春夏を通じて甲子園への初切符を手に胸躍らせた選抜高校野球2020は、無観客試合も検討の結果、無念の中止となりました。『夏に必ず出場』と捲土重来の決意を新たにしていました。

## 他者をもてなす心を再考察

4月号の「ふれあいの里だより」の巻頭言で、『あいさつという行為の一言には、いろいろな意味が含まれている』ということを手張されている。これの意味するところは、人間には他人の気持ちを感じ取るという素晴らしい能力が備わっているからに他ならないということである。あいさつを交わすことで、微妙な表情や仕草や、声のトーンなどから、相手の気持ちを読み取ったりして、人と人とのコミュニケーションは成り立っているのである。

メールなどの文字のみの言葉は、複雑な情報を遠くの人へ伝えることに役立つが、心の内で感じていることを共有するには不足するからトラブルの素となることもある。つまり、文字だけのコミュニケーションでは、相手が何を本当は感じているのか分からずに不安になったりもするからである。人間の脳のすごいところは、頭の良さや記憶力、集中力などの知的な能力に注目しがちだが、他人の気持ちを感じ取り、他人の幸せまで考えられる社会的な部分があることを考えると、意味深長になってくる。

※自らの「もてなしの心」を高めたり、培ったりしていくのは、障害者施設に関わっている誰でもが真剣に考えなければならないことである。しかも、それは、『かすみ草』のようにあってほしいものです。つまり、どんな花にも合い、全体を優しく包み込みながら、主役の花を引き立たせてくれることに徹している役割は「もてなし」そのものではないかと思われるからです。



## 5月の施設経営

## 【利用者にさらなる活気の喚起を】

全国的に蔓延しつつある新型コロナの影響が、どのような形で施設運営に及ぼしてくるのか先々見えないうちに、戦々恐々とした日々を送っており休まることはありません。このことは全職員が同じ思いであると思います。

これまで幾多の難事をクリアしながら、利用者と共に精出してきましたが、今回のコロナ対策だけは異質であり、これまでの経験値では解決できないことばかりですから、施設としての細部のコロナ対応策を策定し、日常的な取り組みの強化を図りながら防止を図っていかねばなりません。コロナ対策で自分のポジションと意味づけをしっかりと理解して、日常的な取り組みを実践して欲しい。

さて、新型コロナで世間が暗闇の中に入り込んでいますが、施設では年度当初から、各作業部門が調なスタートを切れているようで喜んでおります。スタートから澁刺とした新たな取り組みの姿は、実に爽やかな活気を感じさせてくれます。

何事にも増して、当初に求められることは、日々の健康体の維持ですが、その健康体の補償された者にだけ付随してくるのは、活動への漲る意欲となります。（マズローの欲求の5段階を思い起こして）

意欲の凝縮された集団は、活気に満ちあふれた雰囲気醸成してくれると思います。各工房の一人ひとりの利用者がどのような形態をしているかをしっかりと観察して、利用者を観る目を養って欲しい。

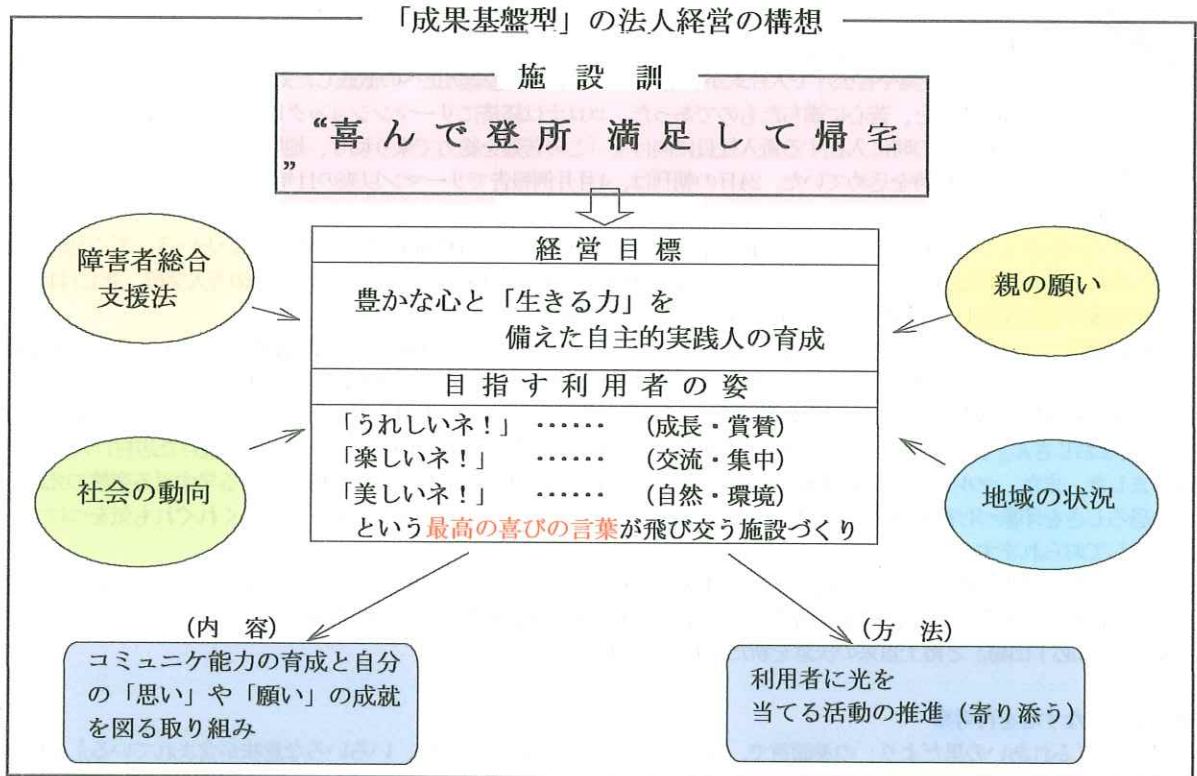
活気とは、「やる気が漲っている」ということであり、

**利用者のやる気 × 指導者の改善策と仕掛け = 「知覧ふれあいの里」の活気**

やる気は、今日は最低これだけは達成するのだという活動の「目的意識」に支えられたものであり、目的意識と職員の仕掛けのぶつかり合いが活気を生んでいきます。 ※職員がどのような「仕掛人」になるかがポイントです。

そして、1ヵ月のならし運転を終えて、いよいよアクセルを一杯に踏みエンジン全開で取り組んでいきましょうか。

【今までを反省し、今後の在り方を考えよう】



本年度の経営方針から新たに策定された「経営目標」に自主的実践人という文言を位置づけました。これの意味するところは、自らの課題を見出し、積極的に解決（実践）していく利用者の育成です。

つまり、利用者がどのような生き方を模索していくは、「ヤル気」に裏打ちされたものなのです。

#### ○「やる気」について考える

「やる気」は、進んで事を成し遂げようとする心のことであり、「達成動機」を意味します。「志のない者は如何ともし難い」と孔子は論語の中で述べています。

##### ①なぜ「やる気」がないのか。

・目的をもっていない    ・仕事が面白くない    ・解らない    興味関心がない    ユーモアがない    成就感がない    工夫がない    褒めてもらえない

##### ②「やる気」はどうしたら育つか。

・喜びと希望を与える。    ・自信を与え、やればできると思わせる    ・勇気を与え、不安をなくする  
 ・小さな成功でも評価し、認めてやる    ・公平に指導する

※要するに「評価し褒めてやる」、「激励し勇気づけて自信をもたせる」、「存在感を抱かせる」ということではないだろうか。

#### 利用者の喜びと表現

これはイイナというほめ言葉がある。

利用者が何かをしたとき、「……やれば出来るね！ ほう！よくやったね。」という言葉である。こう言われた利用者は本当に嬉しそうにそう言った職員も充実した感じがするもの。利用者も「できた！ やった！」という満足感を実感し、更なる「ヤル気」が沸き起こってくると思われる。このようなことを考えると、『教える』ということは職員と利用者との心の共鳴のようなものではないかと思う。

褒め上手な職員を目指しましょうか。利用者もそういう自分を認めてくれる職員との出会いを待っていると思いますよ。

#### わかったつもりとわかったこと

・「きれいな製品を作りなさい」と指示する。きれいな製品とはどんなにすることなの。今自分が作った製品はどうなっているのかなど、その価値判断が不明な指示をしてしまうことは絶対に避けなければならない。

・手を洗いなさいと注意する。手のどこを、どう洗えばよいのか、そのときの状態によって洗い方も変わってくる。水を流しながら、丁寧に何度も、きちんと身につくまでで教え込まなければ、手洗い一つが本当に分かったということにはならない。

・「清掃を丁寧にしなさい」という。すると、清掃をどのようにすることが丁寧にすることであるのか分からない。そこで、具体的にやり方を教えなければ実践できないのである。

このように指示をしても、どうすればよいのか解らないのが利用者の実像なのである。だから、事前指導したことであっても、その時々改めて一つ一つを教えなければならぬのである。

①やってみせて（やらせてみて）    ②その結果を褒めてやらねば    ③人は動かないのである。

「分かる」ということは、自分でよく分かって、ねらいをハッキリさせて、その関係に気づくことで、「ヤル気」も出てくる。